



広報 第44号

•発行 平成25年10月1日•

四季の風

■発行責任者／病院長 曾根 孝仁
■編集／大垣市民病院広報誌編集委員会

理念

患者中心の医療 良質な医療の提供

大垣市民病院臨床研修の理念

- ◎社会人としての規律を守り、医師として思いやりのある人格を涵養する。
- ◎プライマリ・ケアに必要な幅広い診療能力を修得する。
- ◎チーム医療の一員として、安全・安心・満足の得られる患者中心の良質な全人的医療を実践する。

当院は、臨床研修病院に指定されており、次世代の医師育成のため、上級医の指導のもと研修医の臨床研修及び学生の臨床実習を行っています。



(長野県 莼科)

周産期医学の進歩、とりわけ超音波画像診断の進歩により、多くの先天奇形の出生前診断が可能になりました。超音波検査は形態異常を捉える検査です。頭部から四肢に至るまで数多くの先天奇形の出生前診断が可能です。もちろん中には出生前診断が困難あるいは不可能な疾患も存在しますが…。その一方で、心機能を除くと機能異常の出生前診断は原則的には不可能です。ですから、残念ながら胎児ドックでも胎児の異常がすべて分かるわけではありません。

出生前診断が可能な疾患の中には出生後に診断されても児の検査・治療に問題のない疾患も存在しますが、出生前診断により出生直後からの検査・治療の開始が児のよりよい治療成績につながっている疾患も数多く存在します。とりわけ心臓病や消化器・呼吸器疾患は出生前診断です。

「胎児ドック」という言葉、聞かれたことはありますか？簡単に言うと、胎児の人間ドックです。つまり、胎児に先天奇形などの異常がないかを精密検査し、出生前診断することを胎児ドックと言います。ですから大人がうける所謂「人間ドック」とはすいぶん意味合いが違うことになります。

周産期医学の進歩、とりわけ超音波画像診断の進歩により、多くの先天奇形の出生前診断が可能になりました。超音波検査は形態異常を捉える検査です。頭部から四肢に至るまで数多くの先天奇形の出生前診断が可能です。もちろん中には出生前診断が困難あるいは不可能な疾患も存在しますが…。その一方で、心機能を除くと機能異常の出生前診断は原則的には不可能です。ですから、残念ながら胎児ドックでも胎児の異常がすべて分かるわけではありません。

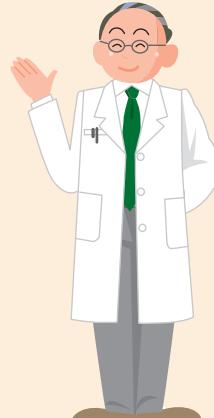
妊娠経過中に赤ちゃんが大きい・小さいと言われた場合、羊水が多い・少ないといわれた場合、お母さんが薬を飲んでいたり病気があつたりして胎児に影響がないか心配な場合、上の子や近親者に先天性の病気を持って生まれ自分の子が大丈夫か心配な場合などが、胎児ドックのよい適応になります。



当院で行っている胎児ドックの流れを紹介します。胎児超音波外来で一人あたり30分～60分

胎児ドックの勧め

産婦人科 伊藤 充彰



・診療部 専門医が教える家庭の医学

かけて超音波検査により胎児の精査を行っています。必要に応じて新生児科・小児循環器科・小児外科の各医師も検査に参加します。出生前診断に最も適した妊娠週数は20週～30週頃ですが、それ以外の週数でも十分に対応は可能です。異常が見られた場合には引き続きカウンセリングを行い、必要に応じて追加の画像検査（胎児のMRIや3DCT）や血液検査を行います。そして、慎重な妊娠・分娩管理、出生直後から専門医による検査・治療へとつなげていきます。当院で治療が不可能な疾患の場合には出生前に専門施設を紹介し転院していただくこともあります。逆に異常がみられない場合にはかかりつけ医に戻って分娩することも可能です。

医療連携ネットワークシステム(OMNet)について

「OMNet」(オーネット)・医療連携ネットワークシステムは当院とかかりつけ医で診療情報を共有し、正確な情報に基づいた質の高い安全な医療をかかりつけ医の診療所で受けていることを目的に平成25年4月より本格的に導入いたしました。



本システムは、インターネットを利用して当院と診療所の端末をつなぎ、当院で行われた検査等の診療内容やレントゲン写真、お薬などの診療情報をかかりつけ医の端末から閲覧できるものです。患者さんの診療情報は毎日自動更新されるため、常に最新の情報を閲覧いただけます。この「OMNet」が、西濃地域における医療情報の共有ツールとして利用されるところにより、病院・診療所の間で切れ目のない安心できるより質の高い医療が患者さんに提供できるものと考えています。

現在、じつ利用いただいている医療機関は37医療機関、参加いただいている患者さんは1063名となりました(平成25年8月末現在)。

閲覧できる内容

当院で行われた処方(内服・注射)、画像・レポート、血液検査結果、診療情報提供書、退院サマリーです。さらに、診療所と当院の双方から掲載できる機能(共有マップ)を使って個別に載せられた診療情報も閲覧できます。

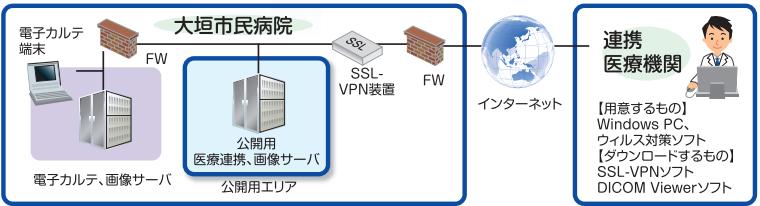
参加方法(患者さん)

「OMNet」でのご参加をお考えの患者さんはまず、かかりつけ医から「OMNet」の説明を受けます。そして、参加にご賛同いただければ、「患者同意書」と「個人情報外部提供申請書」に署名し、かかりつけ医は当院に同意書を届け出してください。提出後、当院は患者さんの診療情報をかかりつけ医に公

開させていただきます。
なお、「OMNet」は、インターネット回線を利用しますが、安全性の高い暗号化通信を採用しております。さらに、かかりつけ医が利用できる端末は有料のウイルス対策ソフトを備え、当院に利用を届出した端末での使用となっており、個人情報の管理についても徹底した対策を行っておりますので安心ください。

閲覧利用方法(かかりつけ医の先生へ)

じつ利用をお考えの先生は、当院への利用申請と登録が必要です。「OMNet」の趣旨と利用規定をご理解いただき、利用条件に合った端末の用意と「利用者登録申請書兼誓約書」を届出し、登録手続きをしてください。登録されますと、パスワードを配布しますので、手引きに従って設定をお願いします。



よくあるご質問

Q1 一度、参加に同意すると、取りやめることはできますか。

A じつでも患者さんとの希望でやめたい方ができます。
[同意撤回届]に書類のうえ、かかりつけ医へ提出ください。

Q2 参加に費用はかかりますか。

A 患者さんの費用の負担はありません。

Q3 かかりつけ医が「OMNet」の利用者登録をしているか知りたい。

A 当院のホームページ(医療関係者の方へ)に掲載しております。

Q4 一つのかかりつけ医で同意書を提出したら、別のかかりつけ医にも公開されますか。

A 複数のかかりつけ医へ公開するには、それぞれかかりつけ医に同意書を提出する必要があります。

お問い合わせ

ご利用手続き等に関するご相談・地域連携課(内線6174)
システムの設定等に関するご相談・医事課医療情報グループ(内線6370)

看護部 がん看護専門 看護師の紹介



林 ひとみ

「がん看護専門看護師」とは、日本看護協会が定める専門資格の一つです。

がん患者さんやそのご家族が安心・安楽にその人らしい週じていただけます。残念ながら外来診療は時間の制約があり、主治医や外来看護師との十分なコミュニケーションが困難な現状です。そこで、院内の看護師に教育的に関わり、がん看護の質の向上を図る役割もあります。

現在、私は外来通院中の患者さんやご家族を担当させていただいている。体や心の苦痛を和らげ、様々な意思決定の支援・療養環境の調整、多職種との連携などを専門的に行っています。また、主治医から依頼を受け、「看護外来」でお話をうかがっております。ご相談内容によっては、がん化学療法看護認定看護師や緩和ケア認定看護師、がん専門薬剤師等と連携して対応させていただいている。

看護外来をじて希望の方は主治医や外来看護師にじて相談ください。



主なご相談内容

- ① 病気や検査・治療に関する疑問や不安、セカンドオピニオンなど
- ② がんに伴う痛みや症状、治療による副作用や後遺症など
- ③ 再発への不安・漠然とした不安
- ④ 通院困難、ご家族の不安や介護疲れ、療養場所の選択などに必要な情報提供、関係職種との連携や調整

看護部の理念

安心と満足につながる温かな看護の提供

※1 付加量

	エネルギー (kcal)	たん白質 (g)	ビタミンA (μgRE)	ビタミンC (mg)	葉酸 (μg)	カリウム (mg)	鉄 (mg)
一般食	1700	65	700	100	240	2800	9
妊娠初期	+50	+0	+0	+10	+240	+0	+2.5
妊娠中期	+250	+5	+0	+10	+240	+0	+15
妊娠末期	+450	+25	+80	+10	+240	+0	+15
授乳期	+350	+20	+450	+50	+100	+400	+2.5

妊娠中期・末期には、胎児の発育のための栄養が必要となり、特に末期で増大します。また、授乳期は、母乳を作るための栄養が必要となります。そのため、非妊娠時の栄養量に付加量が必要となります。そのため、非妊娠時やカルシウムは普段の食事から不足しがちであり、当院においても、一般食を基本に食品の追加や、間食を提供することで、必要な栄養量の確保に努めています。

緑黄色野菜は、ビタミンA、葉酸、カルシウム、鉄などの供給源になります。1日120g以上を目指し、野菜全体としては、350gを目標に食事に取り入れています。

妊娠中期・末期には、鉄の必要量はかなり増大するため、鉄欠乏性貧血に注意が必要です。通常の食事に鉄分強化ふりかけを追加し、間食にも鉄分強化した飲み物を利用しています。

当院の妊産婦食は妊娠末期と授乳期を対象としています。妊娠期(初期・中期・末期)は、胎児の発育のための栄養が必要となり、特に末期で増大します。また、授乳期は、母乳を作るための栄養が必要となります。そのため、非妊娠時の栄養量に付加量が必要となります。そのため、非妊娠時やカルシウムは普段の食事から不足しがちであり、当院においても、一般食を基本に食品の追加や、間食を提供することで、必要な栄養量の確保に努めています。

当院の妊産婦食は妊娠末期と授乳期を対象としています。妊娠期(初期・中期・末期)は、胎児の発育のための栄養が必要となり、特に末期で増大します。また、授乳期は、母乳を作るための栄養が必要となります。そのため、非妊娠時の栄養量に付加量が必要となります。そのため、非妊娠時やカルシウムは普段の食事から不足しがちであり、当院においても、一般食を基本に食品の追加や、間食を提供することで、必要な栄養量の確保に努めています。

健康アドバイス

妊産婦食のご紹介



エネルギー・たん白質

昼食に牛乳を追加し、間食(※2)を提供することで、エネルギーとたん白質を付加することができます。

カルシウム (必要量650mg/日)



※2 1週間の間食メニュー
(1日平均200kcal、たん白質5g)

野菜の摂取が少ない時は、野菜ジュースを間食に取り入れることで、ビタミン類の補充ができます。

葉酸は妊娠によって必要量が増大し、不足すると貧血を生じます。

ビタミンAは、妊娠初期の過剰摂取による先天奇形の増加が報告されています。

果物

果物は、ビタミンC、カリウム、食物繊維などの供給源です。毎日、昼・夕食に適量を取り入れています。家庭では、間食に利用するのも良いです。

No1. 更年期障害



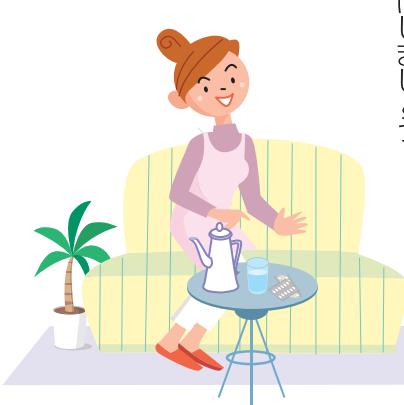
更年期障害は、女性ホルモンの急激な変化に体がついていけない状態となり、ほてり、発汗、冷汗、冷え、動悸、イライラ等の症状が出現することがあります。人により現れる症状やその程度は様々です。程度が軽い場合には薬を使わなくても、ゆっくり入浴したり、

散歩したり、読書をしたりと自分なりにゆったりとできる環境をつくることなど心と体をリラックスして、上手に更年期障害を乗り切ることができます。

しかし、つらい症状が続く場合には、少しでも快適な暮らしを取り戻すことができるようにお薬を使用してみるのも一案かと思います。

更年期障害の治療に使用され

る薬には女性ホルモンを補う働きをする薬があります。当院では、プレマリン、ジコリナ、エストロール、エストローナ、メノエイドコンピッヂといったものが使用されています。



IVR-CT装置について

中央放射線室



IVR-CT装置とは、X線により体内をリアルタイムで透視・撮影が出来る血管造影装置と、体内の精密な断層像(輪切りの写真)が得られるCT装置が一体となったもので、ベッドに寝た状態のまま、血管造影とCTの2つの検査が出来る装置です。2つの検査を組み合わせる事で、病変の診断だけでなく、治療支援装置としても使用することが可能となり、主に肝臓癌のカテーテル治療の際に用いられます。



肝臓癌のカテーテル治療は、腫瘍に栄養を送る動脈にカテーテルを挿入し、そこから抗癌剤を流す治療法です。この際、腫瘍の場所を同定し、腫瘍に栄養を送る血管を探す必要がありますが、血管造影画像に加え、CT装置で撮影した画像から3次元画像を作成することで、立体的に腹部の解剖を把握することができ、的確な治療、治療時間の短縮、患者さんの負担軽減が可能となります。

お知らせ

糖尿病公開講演会

演題：「簡単なようでも意外と奥が深い
体重と血糖の関係について」
糖尿病腎臓内科医長 柴田 大河
日時：平成25年10月17日（木）
午後4時～午後5時
場所：管理棟5階 講堂
問い合わせ先：糖尿病腎臓内科 内線 2101

よろず相談・地域連携課出前講座

テーマ：「“身体障害者手帳”の取得方法と
利用できるサービス」
身体障害者手帳の取得手続きと、手帳取得後利用して
いただける制度・サービスについてお話しします。
日時：平成25年10月24日（木）
午後4時～午後5時
場所：3病棟2階 デイルーム
問い合わせ先：よろず相談・地域連携課 内線 6178

市民公開講座

演題：「心臓手術のお話」
心臓血管外科医長 横手 淳
日時：平成25年10月25日（金）
午後2時～午後3時
場所：管理棟5階 講堂
問い合わせ先：診療検査科 内線 4521

※3つの講座については、事前の予約は必要がなく、どなたでも無料で参加いただけますので、多数のご参加をお待ちしております。

診療科名の追加

「外科」に新たに「乳腺外科」を設けました。

第18回市民の健康広場

日時：平成25年10月20日（日）
午前10時～午後3時
場所：大垣城ホール



公開講演会

テーマ：「いつまでも自分で歩こう」
～ロコモティブシンドロームの予防と対策～
整形外科医長 川瀬 剛

時間：午前11時～

*講演会以外に各種検診などを行っています。事前の予約は必要がありませんので、この機会に家族の健康状態をチェックしたり、役立つ知識を学んでみませんか。

胸部レントゲン・血液検査・血圧測定・体脂肪測定・血液さらさらチェック・歯の健診・認知症予防コーナー・介護相談コーナーなどなど



看護師
(正職員・パート)

随時募集

保育所完備

○応募資格／採用時満55歳までの方
(准看護師は45歳までの方)
正職員：助産師、看護師免許取得者
パート：助産師、看護師または
准看護師免許取得者
※正職員は夜勤も数回できる方

○勤務体制／外来または病棟勤務
○選考方法／書類選考および面接＊面接日などは後日連絡
○申し込み／助産師、看護師または准看護師免許の写しと
履歴書（写真添付）を大垣市民病院庶務課へ
郵送またはご持参ください。
○問い合わせ先／〒503-8502 大垣市南頬町4丁目86番地
大垣市民病院 庶務課 ☎0584-81-3341
内線6132・6133

※応募資格・勤務時間等の詳細な内容については、当院ホームページまたは上記の問い合わせ先までお尋ねください。採用者には、一定期間研修を行いますので、安心して働くことができます。たくさんのご応募おまちしております。



工事のお知らせ

託児所及び寮の改築にともなう工事のため、
大変ご迷惑をおかけいたしております。ご理解
とご協力のほど、よろしくお願ひいたします。



当院は敷地内全面禁煙です。ご理解、ご協力ください。

編集後記

「四季の風」44号をお届けしました。次回は1月1日に発行予定です。
「四季の風」では、今後とも多くの皆さまの声をお聞きしながら、読み
やすい紙面づくりを目指してまいります。
ご意見ご要望がございましたらお気軽に寄せください。

大垣市民病院広報誌編集委員会

〒503-8502 大垣市南頬町4丁目86番地

TEL(0584)81-3341 FAX(0584)75-5715

<http://www.ogaki-mh.jp/>

（電話でのお問い合わせについては、お間違いないようお願いします）